

探 究

探究 Co 便り 文：伊藤

令和6年11月18日(月)

NO.9

「開智探究の日」 島田先生の授業を通して学んだこと ～S君とN君の探究～

遅くなってしまいましたが、「開智探究の日」に授業を公開してくださった先生方と共に授業をふり返れるように、そして授業を参観することができなかった先生方に少しでも授業の様子を知っていただけるように授業の内容を探究便りでお知らせすることになりました。今回は島田先生の授業について伊藤が見させていただいた子どもの姿から授業の様子を紹介させていただきます。

私が見させていただいたのはS君(とN君)です。導入場面で島田先生の説明を聞く時間、S君は友達から「お話聞くんだよ」と2度注意を促されていた子でした。他の多くの子が席に座って話を聞いていたのに対し、S君はすでに立ち上がって机の上に用意してある段ボールにからだに向かってしまっていたのです。そんなS君の姿は落ち着きがないようにも見え、し、「早く作りたい!」とはやる気持ちを表している姿のようにも見えました。そして、いざ活動が始まるとS君は「やるか」と静かにつぶやき自身の探究に向かっていったのです。

S君が作り始めたのはどんぐりの発射台(写真1)でした。初めは本を見ながら一人で作っていましたが、途中からN君が加わりました。しかし発射台づくりへの思いが強く、こだわりを前面に出すS君に対して、N君は常にお手伝いの役に回り「S君の発射台づくり」をサポートするという立ち位置にいました。(写真2)ところが、授業が終末に近づくにつれて反対にS君がサポート役に回る(写真3)という風に2人の関係が絶妙に変わっていったのです。

こうした変化を生む出来事が起こったのは、図(写真4)のように、洗濯バサミを段ボールに固定する段階に入った時です。金具の部分が当たってしまい洗濯バサミを段ボールにうまく接着することができず、S君も自分ではどうにもならないくらい困ってしまいました。そんなS君の様子を見たN君は島田先生に相談に行きましたが、その時島田先生は「N君はどうしたらいいと思うかな?」と一度N君自身にその問題を返し、具体的なアドバイスや支援を控えました。そし



【写真1：どんぐりの発射台】

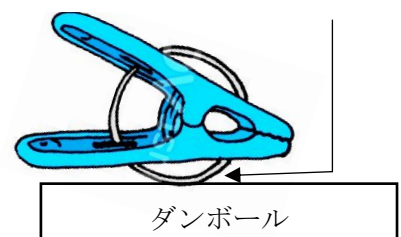


【写真2：S君をサポートするN君】



【写真3：N君をサポートするS君】

金具が当たって
接着できない



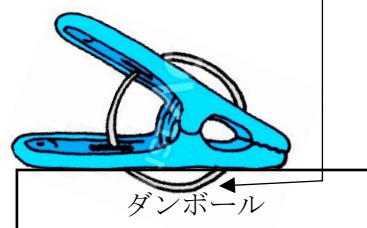
【写真4・図：洗濯バサミの接着】

てこの時の島田先生の出によって 2 人は劇的な瞬間を迎えることになります。

島田先生から自分で考えることを促された N 君はしばらく考えた後「そうか!」と何かを閃いたように大きな声をあげ「ここに、切り込みを入れてうめればいい!」図(写真 5)と S 君に必死で説明をします。S 君は「どういうこと?」とその説明を完全には理解していない様子でしたが、N 君は、再度島田先生の所に行き「先生、いいこと思いついた!!」と言って、段ボールにカッターを使って切込みを入れてほしいとお願いをします。図(写真 5) 島田先生も 2 度目は N 君の求めに応じてカッターで切込みを入れる手伝いをしました。さらに「ここは切っているの?」と細かく N 君に切込みの入れ方を確認されていました。(写真 6) そうした中で次第に S 君も、N 君の思いついたことが分かり、予想通り洗濯バサミの金具が切込みにうまくはまると、とても満足そうな様子でした。その後何ともいえない温かい雰囲気の中で S 君と N 君は次のような会話をしていました。

ダンボールに切り込みを入れ

金具をうめる



【写真 5・図：切り込みをいれる】



【写真 6：切り込みを入れる

島田先生と S 君】

N 君：「おれが思いついてよかった?」

S 君：「・・・」

S 君：「休み時間もいっしょにつくろう?」

N 君：「おれ、マラソンするんだよ」

S 君：「え～。やだ～。・・・」

N 君：「つくるなら。つくってもいいよ。」

大勢の子どもたちを前に、一人の子どもの姿を見とったり、その子に応じた支援をすることの難しさを日々感じます。時に教師の言葉や支援がその子の「これまで」にそぐわないということは日常茶飯事かもしれません。『先生、先生』と言って今、自分の前にやってきたこの子は、それまでにどんないきさをたどってきたのだろう?」「この子が今一番言いたいことはなんだろう??」そうした子どもの声を聴こうとする教師の姿勢が、本時の島田先生のような支援につながるのではないのでしょうか。

そして、S 君と N 君のように休み時間まで続けたいくなるようなわくわくすることが授業で起こっているとき、そこには必ず夢中で探究をしている子ども達があります。調べる・・・まとめる・・・という「枠」におさめようとするのではなく、どうすれば子どもたちが「わくわく」するだろうか? どうすれば夢中になって動き始めるだろうか? そんな風に子どもの姿を思い浮かべながらこれからの授業を構想したいと思います。低学年の子どもたちの姿、そして先生方の実践から学ぶことで開智小学校の新たな探究の可能性がひらけるのではないのでしょうか。